京都市政記者クラブ、京都府教育記者クラブ　同時資料配付

NEWS RELEASE

京都光華大学
京都光華大学大学院／京都光華大学短期大学部

報道関係者各位

2026 年 10 月 26 日

4 分野の専門家が大学体育館に再現した「避難所」で授業
京都府立東稜高等学校との体験型の高大連携講義を実施

京都光華大学（学長：高見 茂）は、2026 年 10 月 29 日（木）、京都府立東稜高等学校の環境・公共・災害について学ぶ 2 年生を対象に、本学体育館に再現した避難所で、学科を越えた 4 分野の専門家による「防災」をテーマとした多職種連携教育を実施します。

本学と京都府立東稜高等学校は高大連携協定を締結しており、2019年度より毎年、連携講義を実施しています。

今年度は講義に加え、初めての試みとして、京都市の指定避難所である本学体育館に避難所を模した空間を設け、高校生が専門職の役割と連携を体験しながら学びます。災害時の避難所では、被災者の安全確保だけでなく、健康管理、食事や栄養への配慮、生活環境の整備など、多様な支援が求められます。こうした支援を適切に行うためには、それぞれの専門職が役割を果たすとともに、互いの専門性を理解し、連携することが重要です。本プログラムでは、異なる専門職が力を合わせて被災者を支える「職種を越えた共創」を、高校生が実際に体感します。

■講義「災害時に起こる問題と避難生活を支える専門職の役割」

防災士の資格を持つ講師が、過去の災害事例などをもとに避難所で起こる課題を取り上げ、被災者を支える専門職の役割と、連携して支援にあたることの重要性を解説します。

■体験授業「避難所の暮らしを支える人と仕事」

本学体育館に再現した避難所の中で、実際の避難生活をイメージしながら学ぶ体験型プログラムを実施します。高校生は、ダンボールベッドを使った生活環境の改善、避難所で犯罪が起きた場面のロールプレイ、災害時の口腔ケアなど、地域防災学・作業療法学・心理学・歯科衛生学の4分野の体験を通して、「なぜ1つの職種だけでは命と生活を守れないのか」を考えます。
講義で得た知識を、これらの体験を通して実感へとつなげます。

本プログラムは、防災・災害について学ぶ高校生が、大学の専門的な学びに触れながら、災害時の支援を多角的に考えることを目的としています。防災の知識だけでなく、専門職同士が互いの強みを生かして協力する大切さを知ることで、多様な学問への関心を広げ、探究的な学びを深めるきっかけとします。京都光華大学は、今後も高大連携を通じて、高校生が大学の学びや専門性に触れ、自らの関心や将来について考える機会を提供していきます。

本学では、本プログラムで扱う分野のほか、看護学科で「災害トリアージ」、健康栄養学科で「災害支援食」など、各学科の専門性を生かした災害・防災に関する学びを展開しています。

■開催概要

【日　時】 2026 年 10 月 29 日（木） 1 部：12：50～13：30　2 部：13：40～14：50
【内　容】 1 部：講義「災害時におこる問題と避難生活を支える専門職の役割」社会共創学科 佐藤 嘉洋 講師（防災士）
2 部：体験「避難所の暮らしを支える人と仕事」
社会共創学科（地域防災学）「避難所の実際と体験でわかる注意点」
福祉リハビリテーション学科 作業療法専攻「避難生活の環境改善・ダンボールベット体験」
心理学科「避難所で犯罪が発生した際のロールプレイ体験」
短期大学部 歯科衛生学科「災害と歯科（口腔ケア）」
【会　場】 京都光華大学 （〒615-0882　京都市右京区西京極葛野町 38）1 部：清風館 3 階 361 教室 2 部：第一体育館

報道関係者におかれましては、本企画について広くご案内・ご取材いただきますようお願い申し上げます。

«取材に関するお問い合わせ»
京都光華大学／短期大学部　入学・広報センター　担当：渡辺
[TEL] 075-312-1899　[FAX] 075-312-5594　[E-mail] hkk@mail.koka.ac.jp　[URL] https://www.koka.ac.jp/

2026 年 4 月共学化！
「京都光華女子大学」から
「京都光華大学」へ

STAY BONBU,CO-CREATE WELL-BEING.
世代を超え、願いをつなぎ続ける学園を目指して
Well-Being な社会を実現するためには多様な人々が手を取り合い共創することが必要です。
その共創のスキルを学生が育めるよう、本学園はジェンダーの壁を取り払い、男女共学化。
おもいやりの心で互いを尊重し、あらゆる人と共創できるキャンパスに進化します。